

# 2020年度mifアンケートパネルのご案内



2020年9月  
生活者市場予測システム (mif) 事務局

# mifは今年でスタート10年目を迎えました

2011年6月 第1回ベーシック調査スタート

2012年6月 第1回シニア調査スタート

## mifアンケートパネルの仕様

調査地域	全国47都道府県
調査対象	20～69歳の男女インターネット利用者（ベーシック）注 50～89歳の男女インターネット利用者（シニア）
有効サンプル数	ベーシック：30,000、シニア：15,000（50歳以上） （50～69歳のサンプルは重複）
設問数	約2,000問
設問内容	生活価値観から生活意識、消費行動まで幅広くカバー

注：性・年代別・地域別インターネット利用人口の構成比に合わせ割り付け

# mifアンケートパネルの主な特徴

## ■ アンケートパネルの主な特徴は下記の通りです。

### 1. 毎年3万人に2000問の質問を実施

- 3万人2000問、全項目でクロス集計可能
- 時系列で集計することで、日本人の変化を追うことが可能

### 2. Webブラウザ上で簡単に使える集計システムを用意

- MRI、MRA社員なら、いつでも誰でも無料で利用可能
- 多重クロス/バッチ集計等の機能を活用し、必要な分析が素早く可能

### 3. 2000問を回答した3万人に対して追加質問が可能

- 2000問以外の質問に絞って調査設計を実施し、安価に調査が可能
- スピーディに調査を実施することが可能

# 10年目を迎えた変更点 -設問項目の刷新-

## ■ 10年目を迎え、下記方針で一部設問項目を刷新しました。

### 1. 技術やサービスに関する認知度/受容性/利用意向設問の追加

- 先進テクノロジーキーワード認知度
- AI、IoT技術の実用化に関する受容性
- MaaSや5Gサービスの利用意向 等

### 2. 社会問題に関する設問の追加

- 様々な分野の社会問題（約150項目）について「認知」、「重要度」、「解決に向けて取り組むべき主体」を質問

### 3. 行動変容を捉えるためのライフスタイル/意識に関する設問の拡充

- リアル、ネット行動時間の変化
- 健康に関する行動が増加したきっかけ 等

## ■ 詳細は、「[2020年度新規設問項目一覧](#)」をご確認ください。

# 10年目を迎えた変更点 -10代パネルを新設-

- **ベーシック調査、シニア調査に加えティーンズ調査を拡充**
  - 政策課題の早期認識や態度変容の予兆を発見するためには、10代の意見をしっかりと確保しておくことが必要
  - 下記仕様のティーンズ調査を実施

## ティーンズ調査の仕様（2020年度調査より新設）

調査地域	全国47都道府県
調査対象	16～19歳の男女インターネット利用者
有効サンプル数	2,000
設問数	ベーシック調査と同様（ただし、10代では回答の難しい項目は除く）

# ご利用にあたって

- 既に有料会員申込みをされている会員様は、9月1日よりご利用できます。
- 新規のご利用は随時受け付けております。下記よりお申し込み下さい。

## サービス概要：

[https://dl19w3jlhkm4w.cloudfront.net/2020/2020\\_service\\_20200220.pdf](https://dl19w3jlhkm4w.cloudfront.net/2020/2020_service_20200220.pdf)

新規お申し込み：<https://mif.mri.co.jp/signup>

- またご質問、お問い合わせは下記事務局にご連絡ください。

mif事務局：[mif@mri.co.jp](mailto:mif@mri.co.jp)

---

# 2020年度 新規収集データ例

---

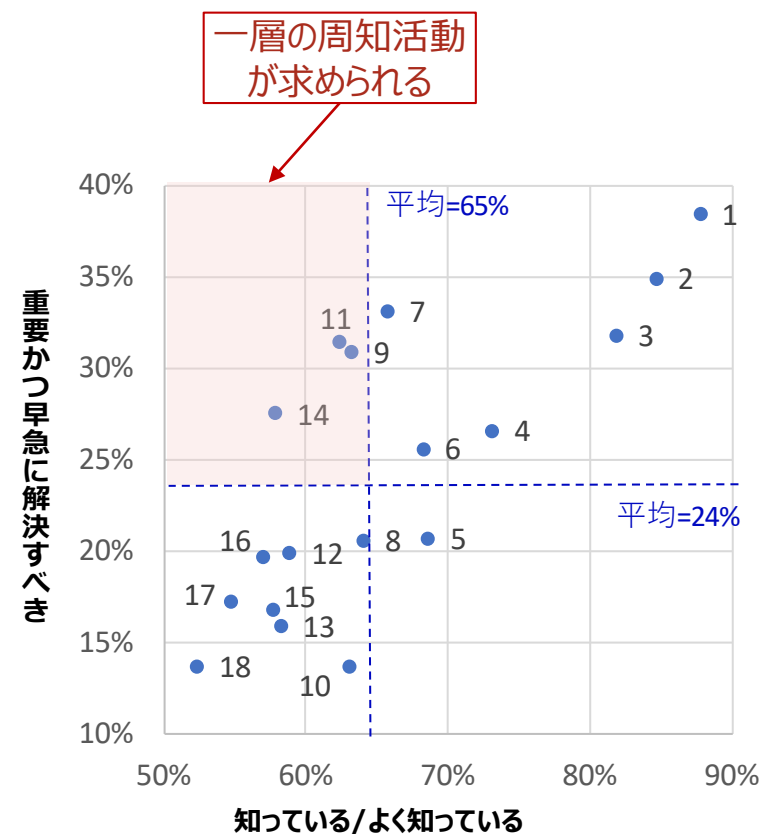
# 社会問題の認知度と重要性

## ■ 環境問題

- 「重要かつ早急に解決すべき」比率が高く、「知っている／よく知っている」比率が低い項目である「9. 高レベル放射性廃棄物処分場建設見通しの不透明さ」「11.核燃料サイクルの今後の成立性の不透明さ」等は一層の周知活動が求められる。

「環境分野の社会問題に関する認知度と重要度に関する認識

No.	項目	知っている/よく知っている	重要かつ早急に解決すべき
1	CO2排出等による地球温暖化	88%	38%
2	海洋ごみ（海洋プラスチック等）の増加	85%	35%
3	大気汚染（NOx、SOx、PM2.5等）の発生	82%	32%
4	自然生態系、生物多様性損失	73%	27%
5	資源の3Rが不十分	69%	21%
6	東日本大震災後に停止した原子力発電所の再稼働の遅れ	68%	26%
7	運転停止した原子力発電所の廃止措置の遅れ	66%	33%
8	一般・産業廃棄物処分場の不足	64%	21%
9	高レベル放射性廃棄物処分場建設見通しの不透明さ	63%	31%
10	居住地近くでの騒音・振動の発生	63%	14%
11	核燃料サイクルの今後の成立性の不透明さ	62%	31%
12	再生可能エネルギー導入による電力価格上昇	59%	20%
13	希少鉱物資源（レアメタル）の供給不安	58%	16%
14	原子力発電所の新設、リプレース見通しの不透明さ	58%	28%
15	都市鉱山からの回収リサイクルが不十分	58%	17%
16	再生可能エネルギーの普及停滞	57%	20%
17	燃料資源価格の高騰	55%	17%
18	燃料電池自動車用水素ステーションの普及停滞	52%	14%





# 行動変容のきっかけ

## ■ ダイエットについて

- ダイエット（カロリー制限）実行は若い年代が多い。
- きっかけは「テレビ番組や雑誌の情報を見て」が多い。また「家族・恋人の注意」は20～30代、「アプリ」は20代男性で高め、「検診」は男性50代以上、女性60代が多い。

1年間の行動日数「一日に摂取するカロリー量を一定値以下にする」の増減

男性						女性				
20代	30代	40代	50代	60代		20代	30代	40代	50代	60代
31%	21%	15%	10%	11%	増加した	24%	16%	11%	11%	13%
63%	74%	79%	83%	83%	変わらない	67%	75%	80%	81%	79%
7%	6%	7%	6%	6%	減少した	8%	9%	9%	9%	9%

### 実施のきっかけ（抜粋）

男性						女性				
20代	30代	40代	50代	60代		20代	30代	40代	50代	60代
7%	8%	13%	24%	25%	健診・特定健診の結果が悪かった	5%	4%	13%	15%	21%
16%	12%	9%	5%	4%	アプリ等を利用して自分の健康状態が分かった	11%	8%	4%	4%	4%
21%	17%	17%	13%	16%	テレビ番組や雑誌等の、健康・病気関連の情報を見て	14%	14%	17%	15%	24%
19%	19%	15%	13%	10%	家族・恋人から注意された	16%	10%	8%	8%	3%
14%	13%	11%	6%	3%	友人・知人の行動をみて	12%	9%	8%	3%	4%

# 技術の受容性について

## ■ 自動車・バス・電車等のAIによる自動運転の普及

- 男性が期待が高い反面、女性は不安が高く認識が異なる。
- 女性は、年齢が高くなるほど、不安も高くなる傾向が見られる。

「自動車・バス・電車等のAIによる自動運転が普及する」ことに対する期待と不安

		20代	30代	40代	50代	60代
期待大	男性	63%	60%	57%	57%	58%
	女性	48%	46%	43%	43%	42%
不安大	男性	37%	40%	44%	43%	42%
	女性	52%	54%	57%	57%	58%

【期待】多くの方が、いつでもどこでも安全・快適に移動する事ができるようになる、移動中に運転以外のこともできるようになる

【不安】ネットやシステム障害が発生すると移動できなくなる、事故の責任所在が明確でなくなる、バスや電車で乗客トラブルが発生しても援助が頼めない

# 10代の意見も反映可能

## ■ 原発の受容性

- 若い世代(10代～20代) は原発に対する受容性が相対的に高い。
- 30年後の原発の受容性をみると、30代以上は、現状よりも活用抑制派が増加するのに対し、20代以下は、現状よりも活用推進派が増加している。

現状及び30年後の望ましい発電方法（原子力発電所について）

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
現状	活用した方が良い	24%	21%	18%	18%	19%	19%	19%
	活用しない方が良い	39%	37%	40%	44%	50%	56%	60%
30年後	活用した方が良い	26%	25%	18%	17%	16%	16%	15%
	活用しない方が良い	37%	35%	42%	48%	55%	64%	67%

# ライフスタイルの把握

## ■ 「地域の誇り」を持っている10代で「住み続ける意識」を高める

- 東京は「誇り」、「住み続ける意識」も高い。
- 住むことの誇りは、10代は地域差が少ないが、年代が高くなると差が拡大。
- 居住継続意向は、地方圏で10代でも全国平均と比較して低い。
- 「地域に誇り」を持っている10代に「住み続ける意識」をどう醸成するかが、地方創生のカギではないか。

この地域に住むことを誇りに思う

	10代		20代		30代		40代		50代		60代	
全国	39%	-	32%	-	30%	-	31%	-	31%	-	37%	-
東京都	40%	1%	36%	4%	35%	5%	35%	5%	38%	7%	39%	2%
都市圏	40%	1%	32%	1%	30%	0%	31%	1%	32%	1%	39%	2%
地方圏	37%	-2%	28%	-3%	28%	-2%	28%	-3%	28%	-3%	33%	-3%

この地域に今後も住みたい

	10代		20代		30代		40代		50代		60代	
全国	40%	-	41%	-	44%	-	49%	-	54%	-	65%	-
東京都	45%	5%	44%	4%	49%	5%	54%	5%	60%	7%	68%	3%
都市圏	43%	2%	41%	0%	45%	1%	50%	1%	55%	1%	65%	1%
地方圏	36%	-5%	38%	-3%	42%	-3%	45%	-4%	49%	-5%	63%	-2%

赤字は全国との差

都市圏：宮城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、広島県、福岡県

地方圏：東京都及び都市圏を除く道県